

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2018/4/8	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	榊原香鈴美

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
東京都御蔵島村
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
御蔵島での研究成果報告会
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 3 月 25 日 ~ 平成 30 年 3 月 27 日 (3 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
御蔵島観光案内所、小木万布
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

本出張は、調査地である御蔵島にて、研究受入先の御蔵島観光協会、商業ドルフィンウォッチング事業者、イルカガイド、村民にこれまでの研究成果を報告することが目的であった。また韓国済州島で同種を観察している Kim Mi Yeon (D1) も同行した。Kim さんには韓国のウォッチング事業の現状、済州島でみられる海洋生物、また漁業とそれらの生物の関係について紹介してもらった。本報告会を通し、イルカの生態に関する知見を深め、イルカツアーに参加するお客さんなど一般の人に広く紹介していただくことを期待している。また、済州島の調査の現状と比較してもらうことでフィールドとしての御蔵の強さを理解していただき、持続可能なドルフィンウォッチング事業への意識を高めてもらえれば幸いである。

<日程>

- 3月25日(日) 移動(京都~東京湾~御蔵島港 22:30)
- 3月26日(月) 当日の打ち合わせ、島民へのあいさつ回り、会場準備、発表 19:00~21:30
- 3月27日(火) 移動(御蔵島港 12:20~東京湾~京都)

<発表スケジュール>

- 合同研究発表会「イルカ夜話」
- 「遊泳者への探索行動と遊泳隊列からイルカの社会を探る」  
京都大学 榊原香鈴美
  - 「韓国済州島のミナミハンドウイルカ:生態と最近の研究」  
京都大学 キム・ミヨン
  - 「御蔵のイルカの見えない所、見えない時間を探る」  
京都大学 辻紀海香 (代: 榊原香鈴美)
  - 「数理モデルでイルカの生存率を探る」  
東京海洋大学 片山佳実
  - 「御蔵島周辺のミナミハンドウイルカの腸内細菌叢の解析」  
日本大学 阿久澤こゆき
  - 「ミナミハンドウイルカに見られるダルマザメ咬傷治癒痕の皮膚組織構造別」  
帝科大学 西村優里

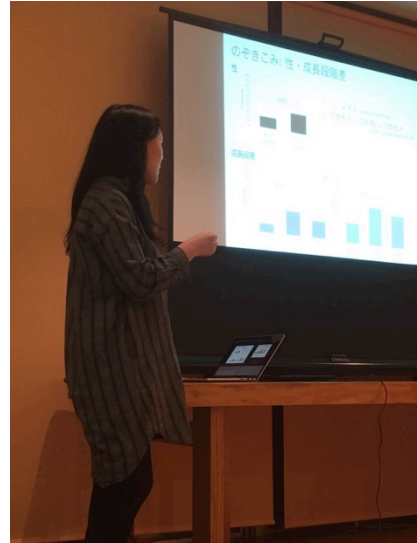


## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



↑ 合同発表会の会場のようす



↑ 申請者の発表のようす

### 6. その他 (特記事項など)

御蔵島観光案内所の小木万布様、本会のとりまとめにご尽力いただきまして大変感謝しております。また荒天による日時変更では、多くの方々にサポートいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。